

チョウが誘う島ウォーキング

オオゴマダラ 学名： *Idea leuconoe*

白黒のまだら模様が特徴の日本では最大級の蝶で、ゆっくりと羽ばたきフワフワと飛ぶ姿が印象的です。その優雅さから南国の貴婦人と呼ばれています。サナギは宝石のように美しい金色をしています。幼虫は、つる植物のハウライカガミを食べて育ちます。毒のある植物を食草にすることで外敵から身を守っています。座間味島ではほぼ一年中見ることができ、薄暗い林の縁などの道沿いで出会うことができます。沖縄県の県蝶に指定されています。

リュウキュウアサギマダラ 学名： *Ideopsis similis*

翅の黒と薄い青色（あさぎ色）の模様が美しい蝶です。木の枝やつるにつかまり、集団で越冬する蝶として知られています。幼虫はつる植物のツルモウリンカを食べて育ちます。毒草を食べることで体内に毒を貯え、外敵から身を守っています。この美しい翅の色は毒があることを外敵に知らせる意味もあります。座間味島ではほぼ一年を通して見ることができ、林の縁の道沿いや明るい林内で出会うことができます。

ツマベニチョウ 学名： *Hebomoia glaucippe*

翅の表は白とクリーム色で、先端部分のオレンジ色が特徴的です。非常に飛翔力が強く、翅をV字型にひらいて敏速に飛びます。幼虫はギョボクの樹の葉を食べて育ちます。座間味島では冬の一時期を除き見ることができ、谷筋や溪流沿いなどで出会うことができます。

ツمامラサキマダラ 学名： *Euploea mulciber*

オスとメスで翅の色が違い、オスの翅の先端部分が、特に美しい青紫の光沢を放ちます。幼虫はイヌビワやガジュマルなどのクワ科、リュウキュウテイカカズラやハウライカガミなどのキョウチクトウ科の植物を食べて育ちます。座間味島ではほぼ一年中、林の周りの道沿いなどで出会うことができます。

シロオビアゲハ 学名： *Papilio polytes*

オス・メスともに黒色の翅に名前の由来になった白い帯が入っているのが特徴です。幼虫は、シークワーサーやハマセンダンなどのミカン科の植物を食べて育ちます。座間味島では冬の一時期を除き見ることができ、明るい林道や人家周辺の草地などで出会うことができます。